

地域の子どもの現実, 貧困・格差の実態に迫ろう

とき●9月9日(月)18:30~20:00
 ところ●高島平団地集会所(2-33-2号棟)
 講師●塩野賢一先生(板橋区教育支援センター)
 出席●18名
 <今回の内容に関係のあるSDGsの目標>



	「あらゆる場所のあらゆる形態の 貧困 を終わらせよう」		「誰も取り残さないで持続可能な 経済成長 を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある 人間らしい仕事 に就くことができるようにしよう」
	「全ての人を受けられる公正で質の高い 教育 の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう」		「国内及び国家間の 不平等 を見直そう」
			「持続可能な開発のための 平和的 で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人 が法や制度 で守られる社会を構築しよう」

- ・発達障害
 - ・不登校
 - ・経済的に苦しい(スクールソーシャルワーカーが必要などところにつなぐ)
- 担任→SSW

(SSWは現在、板橋区に6名いる。小学校は75校あるので一人当たり16校ほどを持っている。)

子どもの現実(親・周囲の無理解)

★「学校相談」では不登校に関する相談が最も多い
 例えばこんな例が多い。

- ・「起立性調節障害」: 朝起きられず生活リズムが乱れてしまっているように見えるが、自律神経失調症の一つ。
- ・精神的に不安定な親: けがをするからと極度の過保護に。

会場からは「子ども食堂の話をよく聞くが子どもたちの貧困の実態、自殺や虐待の実態はどうか?」という質問が出た。

[非正規労働]が大きな問題!

今や非正規労働が4割を占めるようになっていて、給料が安い、ボーナスがない、有給休暇が少ないなどの劣悪な条件で働かされている。これが大きな問題だ!

考え方が個人主義になってきていて、母子家庭、父子家庭が増え、低い賃金しかもらえず掛け持ちで子どもを見る余裕をなくしている親が多い。



塩野先生は、21年間中学校の社会科教員や校長などを務められ、現在は教育支援センターで不登校相談などをされている。

区内22の中学校のすべての教育目標に「身近な環境や自然への理解を深め、「未来へ3」を活用し、ESDとの関連を図り、環境に働きかける心と感性を育成する。また、SDGsの視点を取り入れた**継続可能な教育活動**を推進する。」が入っている。
 学習方法もグループワーク主体で生徒中心、話し合い中心の活動をしている。

SDGs, 教委の取り組み

「自分は1か月前に廣瀬さんから講師の打診があるまでSDGsのことを知らなかったが、皆さんとともに学んでいきたい」
 →はい。塩野先生が話してくれた子どもや貧困・格差の地域での実態を明らかにし、解決していくことがSDGsなんですよ。

こんな相談ができます

- ・「学校に行きたがらない」
- ・「引っ込み思案」
- ・「いじめ」
- ・「学校で全然話さない」
- ・「友達とうまく遊べない」